

2015年8月25日(火)

報道関係者各位

## サッカー一部所属学生の進路意識に関する調査

株式会社アスリートプランニング

株式会社アスリートプランニング(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:山崎秀人)は、今年度より就職活動時期が変更となったことを受け、サッカー部に所属する学生の進路に関する意識を明らかにするため、関東大学サッカー連盟と共同で調査を行いました。

### <調査概要>

調査対象: 関東大学サッカー連盟所属 関東大学サッカーリーグ戦参加 24大学の2017卒学生

有効回答数: 93

調査方法: Web アンケート

調査期間: 2015年8月1日~10日

### <調査項目>

- 部活動の頻度/1日あたりの練習時間
- 卒業後の進路を意識し始めた時期
- 現時点での希望進路
- 就職活動に向けて取り組んでいること
- インターンシップに参加してみたいか
- 就職活動時期の繰り下げについて知っていたか/どのような影響が出ると思うか
- 将来の進路について不安なこと
- アルバイトをしているか

### <本資料について>

本資料に掲載のデータ、図版等の利用やご質問等に関しては、下記までご連絡ください。

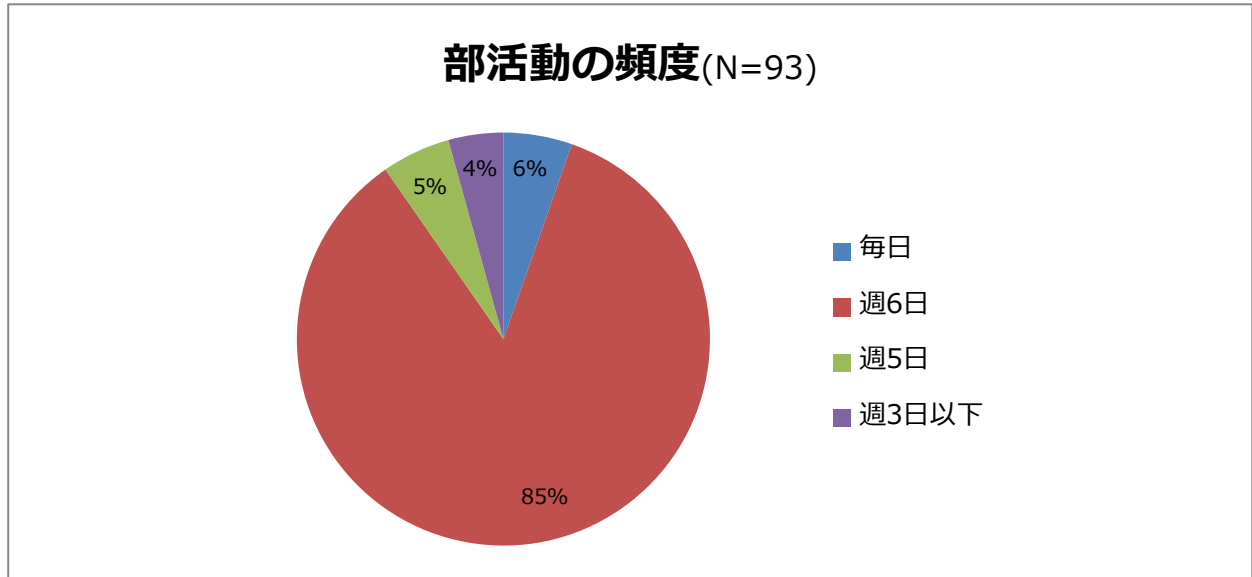
### <本件に関するお問い合わせ先>

株式会社アスリートプランニング 広報室 太田 浩之

Tel: 03-5937-8460 Mail: ohta@athlete-p.co.jp

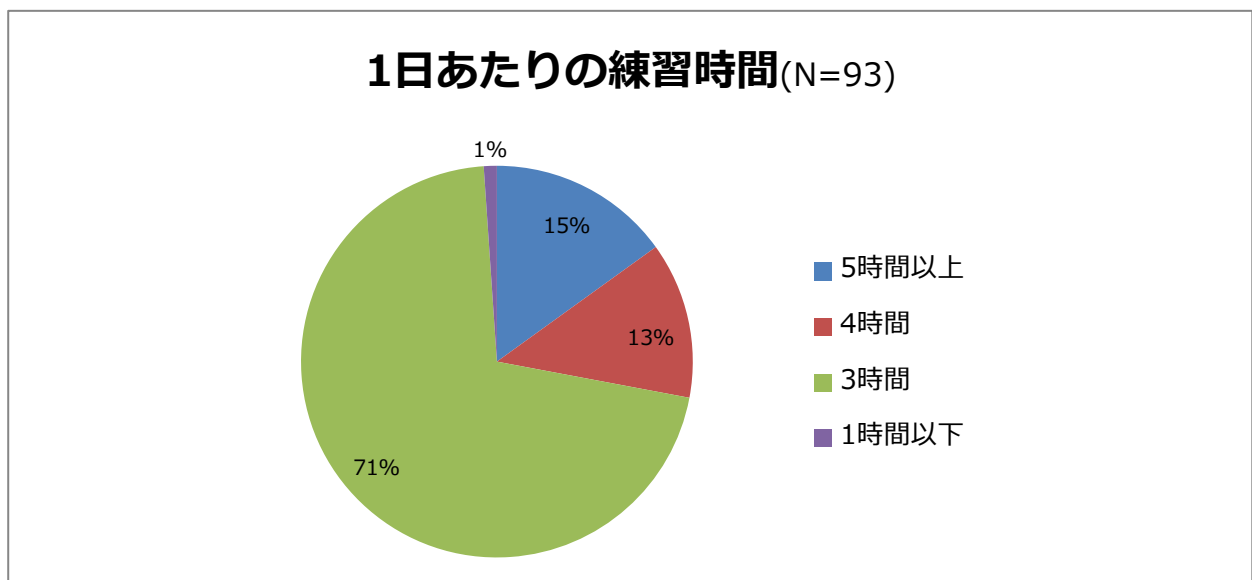
### 1.部活動の頻度は、85%の学生が「週6日」と回答

部活動の頻度を尋ねたところ、85%の学生が「週6日」と回答しました。「毎日」「週5日」を加えると94%となり、ほとんどの学生が週5日以上を部活動に費やしていることが分かります。



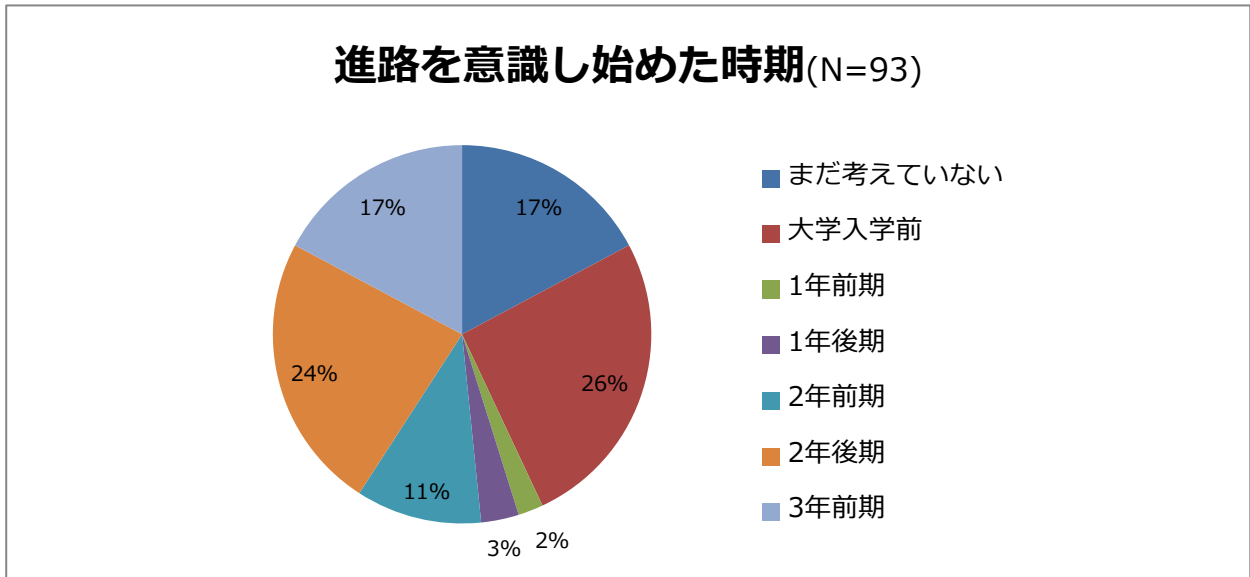
### 2.練習時間は「1日あたり3時間」が71%

1日あたりの練習時間は、「3時間」が最も多く71%の学生が回答しています。「4時間」「5時間以上」という回答も多く、大学の授業などを除いた時間のほとんどを部活動に使っていることが読み取れます。



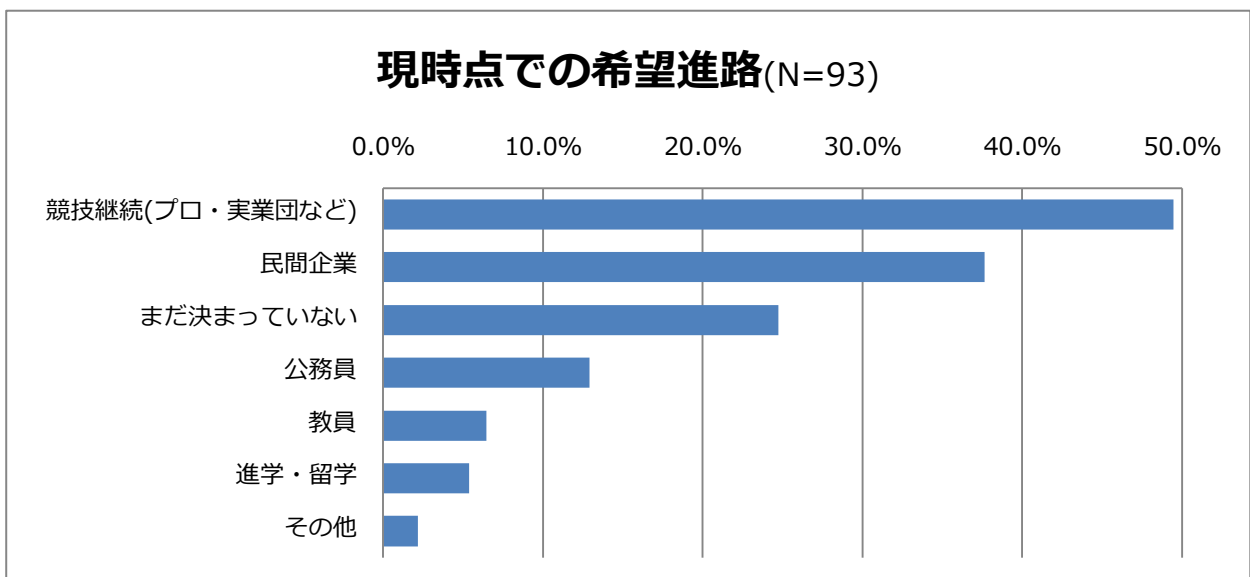
### 3. 競技継続を希望する学生の多くは「大学入学前」から進路を意識

卒業後の進路を意識し始めた時期を尋ねると、「大学入学前」という回答が最も多く 26%を占めています。この回答の8割近くは競技継続(プロ・実業団など)希望であり、サッカーを続けたいと考える学生は、大学入学前に卒業後の進路を決めていることが分かりました。それ以外の学生は、2年後期～3年前期で進路を意識するケースが多く、将来のことを考えながら日々の練習に打ち込んでいるようです。一方、「まだ考えていない」という学生も 17%いるため、日々の生活の中で進路について考える機会が少ないことが考えられます。



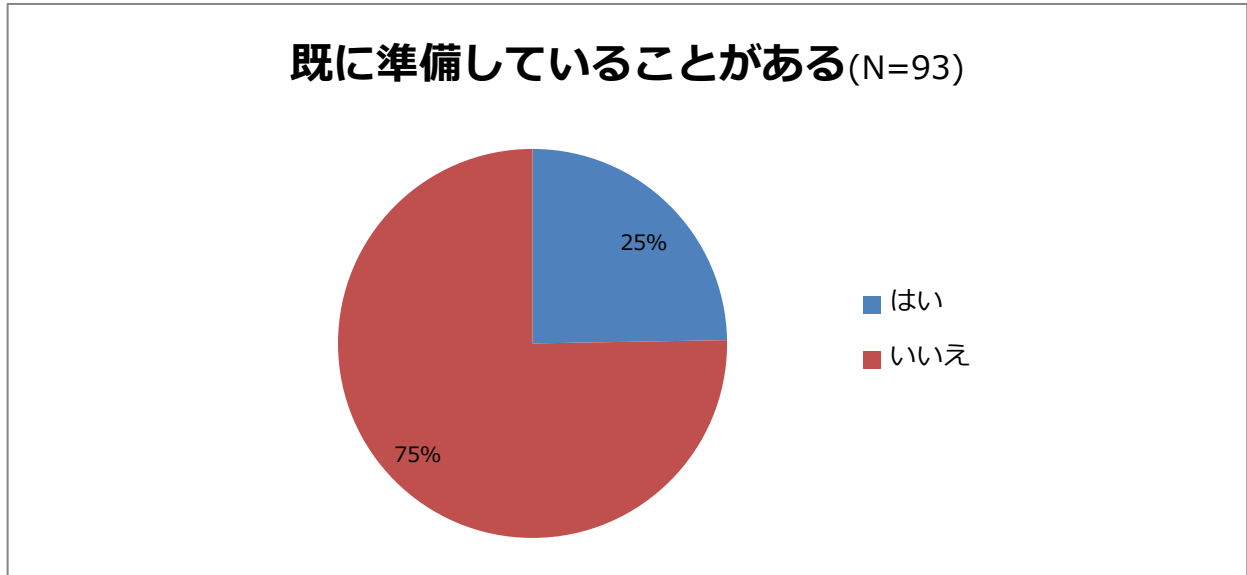
### 4. 現時点での希望進路は「競技継続」がトップで 49.5%

現時点での希望進路は、「競技継続(プロ・実業団など)」が 49.5%でトップとなりました。リーグ戦に参加するような大学では、半数近くの学生が卒業後も競技を続けたいと考えていることが分かります。また、「まだ決まっていない」という学生も 24.7%と多いのが現状です。



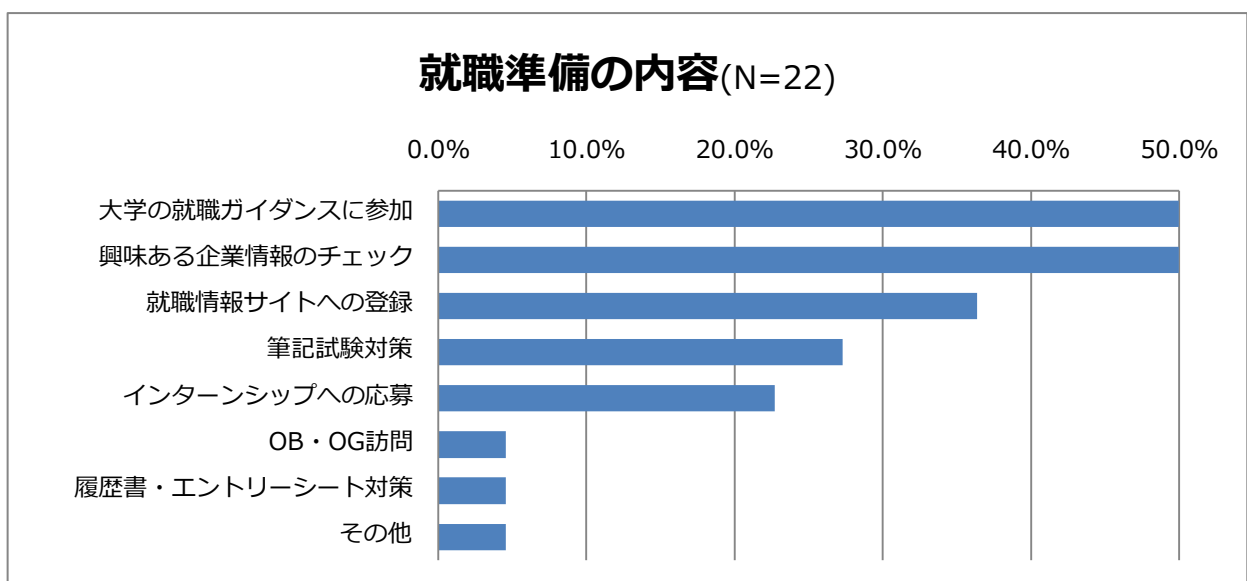
### 5.現時点で、就職活動の準備をしている学生は25%

就職活動のために準備していることがあると回答した学生は25%となりました。他の学生は大学の就職ガイダンスに参加したり、インターンシップに申し込むなど準備を進めておりますが、サッカー部学生の場合、何もしていないという学生が大半を占めました。



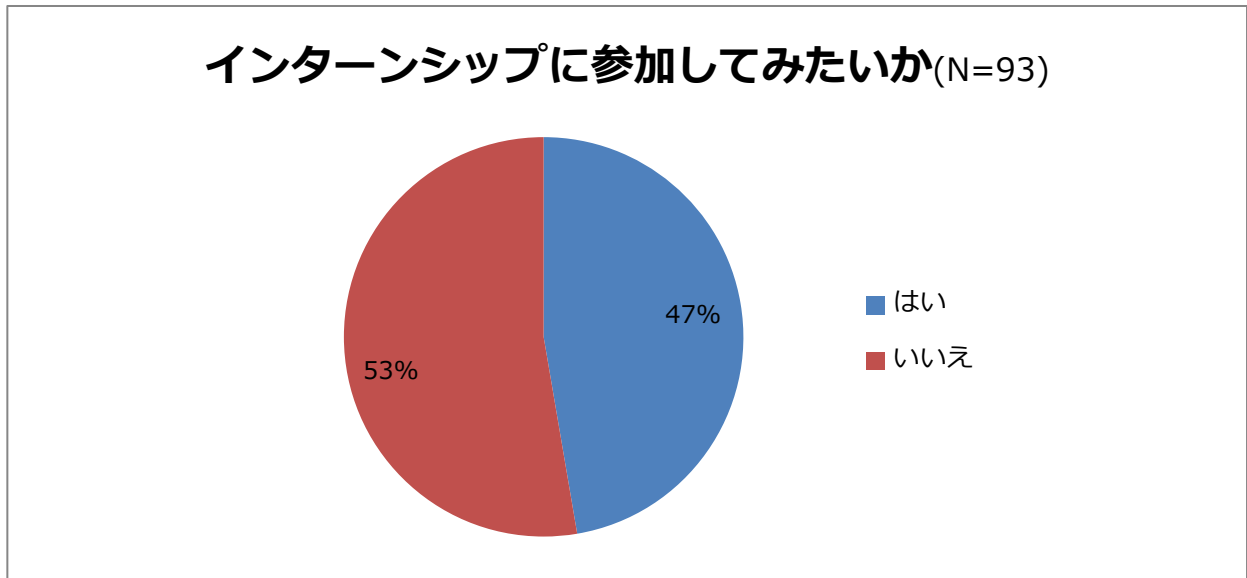
### 6.就職準備は「大学の就職ガイダンス」と「企業の情報収集」

就職活動のために準備していることを尋ねたところ「大学の就職ガイダンスに参加」と「興味がある企業情報のチェック」が、ともに50%となりました。次いで「就職情報サイトへの登録」が36.4%となっており、練習が忙しくスケジュールの都合をつけるのが難しい体育会学生でも、一部は予定を調整して準備を進めているようです。



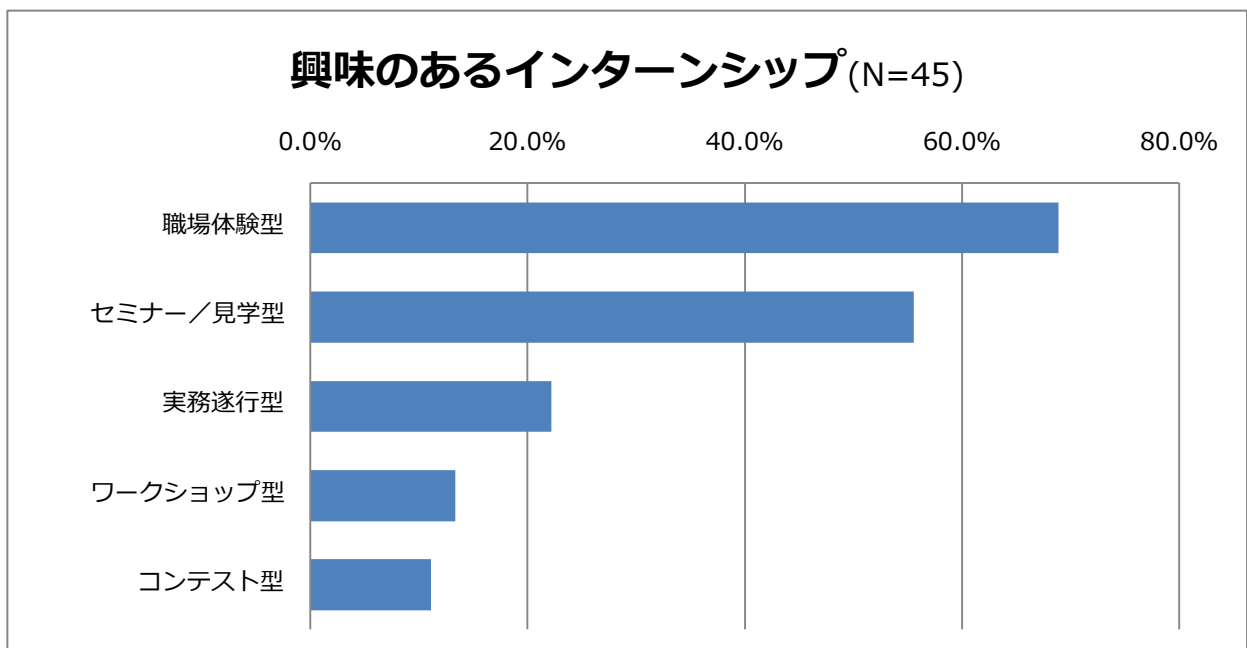
### 7. 約半数の学生がインターンシップに興味

実際に参加できるかどうかは別にして、インターンシップに参加してみたいかどうかを尋ねたところ、47%の学生が「参加してみたい」と回答しました。昨年5月に実施した調査では、実際にインターンシップに参加したことのある学生は33%となっているため、参加してみたいがスケジュールなどの都合で断念している学生がいるということが読み取れます。



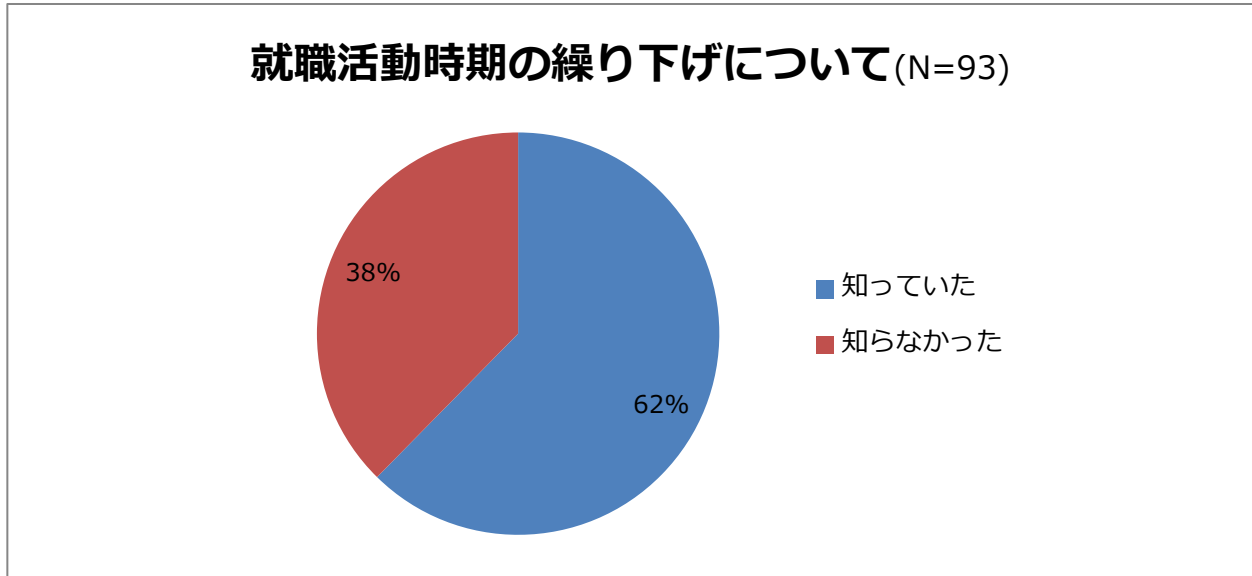
### 8. インターンシップは実際の業務を体験できる「職場体験型」が人気

インターンシップに参加してみたいと回答した学生に、興味のあるインターンシップについて尋ねたところ、最も興味があるのは実際の業務を体験できる「職場体験型」が68.9%でトップとなりました。社内見学や業界・企業に関する説明を受ける「セミナー／見学型」が55.6%と続き、有給のものやプロジェクト型のものには関心を示していないことが分かります。



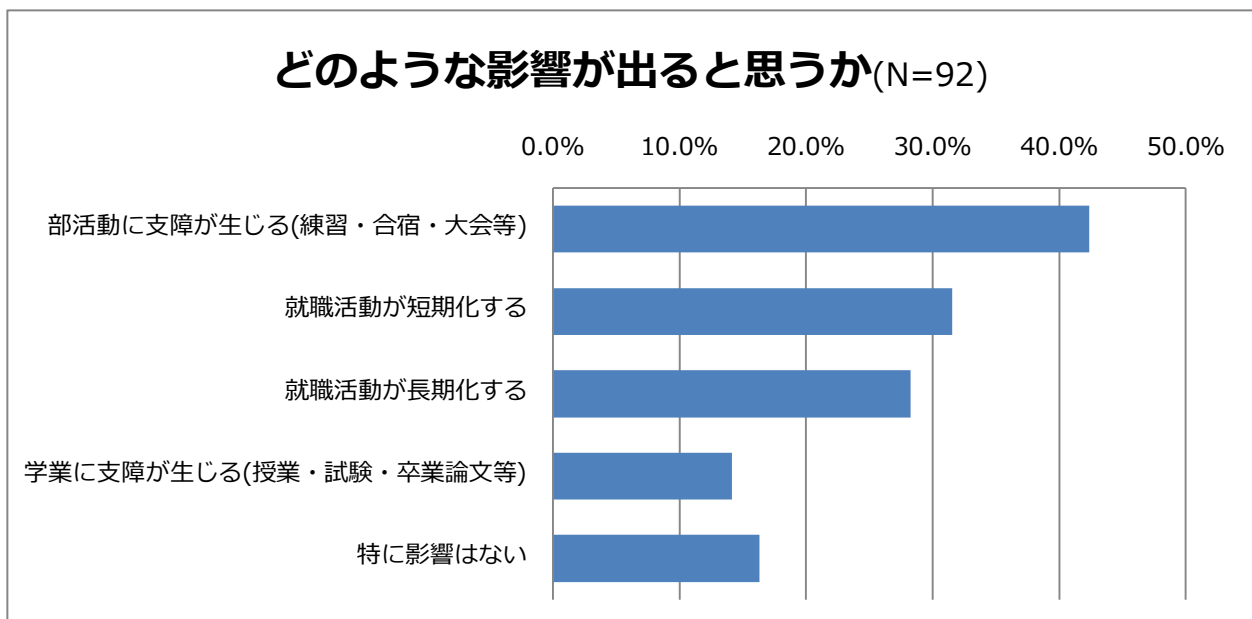
### 9.就職活動時期の繰り下げについて知っていたのは62%

今年度から就職活動の時期が繰り下げになったことについて、知っていた学生は62%となりました。他の調査では95%程度の認知度であったことを考えると、低い結果となっています。大学で実施される就職ガイダンス等、外部の情報に触れることが少ない学生にとっては、就職活動に関する情報が入っていないことが考えられます。



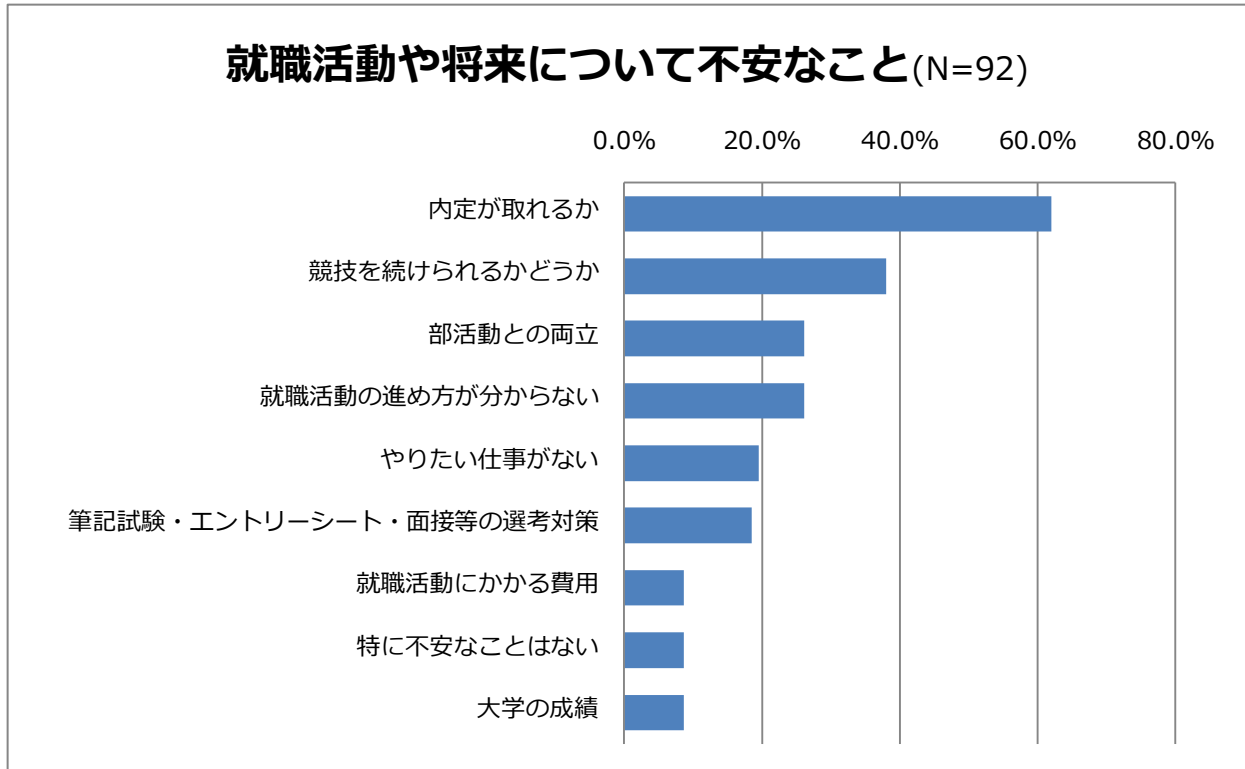
### 10.就職活動時期繰り下げによる影響

就職活動時期が繰り下げになることにより、どのような影響が出ると思うかを尋ねたところ、「部活動に支障が生じる」という回答が42.4%となり、トップとなりました。就職活動への影響については、「短期化する」が31.5%、「長期化する」が28.3%となり、学生によって捉え方が真逆であることが明らかになりました。



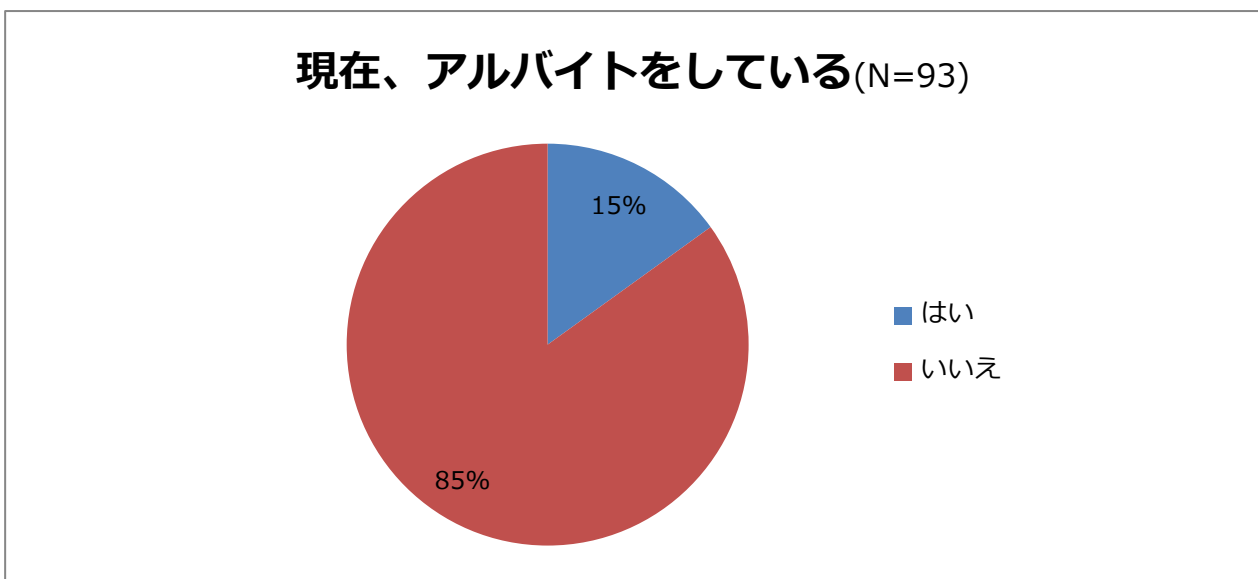
### 11. 将来について不安なことは「内定が取れるか」

就職活動や、将来について不安なことを尋ねたところ、「内定が取れるかどうか」が62%でトップとなりました。次いで、「競技を続けられるかどうか」「部活動との両立」「進め方が分からない」といった意見が出ております。



### 12. アルバイトをしている学生は15%

アルバイトの有無について尋ねたところ、15%の学生が「あり」と回答しました。ほとんどの学生は、部活動で忙しくアルバイトをする時間的余裕がないようです。



### 13. アルバイトの頻度は「週1日」が43%

アルバイトをしている学生に、その頻度を尋ねたところ「週1日」が43%で最も多く、次いで「週2日」が36%という結果になりました。アルバイトをしている学生自体が少ないものの、オフの日などをうまく使って働いているようです。

